

請 願 文 書 表

(教育委員会)

受理番号	1090	受理年月日	令和3年2月19日
件名	教育条件の改善		
要旨	<p>新しい学習指導要領が本年度から本格実施され、道徳の教科化、小学校3年生からの外国語活動導入など、学習内容が増え、一層きめ細やかな指導が必要となってきた。これに加えてコロナ禍で昨年度末、今年度初めの3箇月間が一斉休校となり、遅れた学習内容を今年度中に取り戻すとして、5分短縮の足早授業、小学校中学年以上では7時間授業が6月以降行われてきた。子供たちの学習負担はかなり大きくなっている。国では、小学校の5年計画で35人学級が全学年で進んでいくことが決まった。1学級当たりの児童、生徒の定数が40年ぶりに大きく改善されたことは歓迎である。しかし、コロナ感染予防でソーシャルディスタンスや子供たちの過負担から来る心身のケアを考えた場合、その学級定数は20人程度であり、多くとも30人学級が限度である。また、なかなか改善されない教職員の長時間過密勤務の深刻な問題を解決するためには、小学校では少人数学級を実施することに加え、専科制授業を実施して担任に授業以外の仕事を行う時間を保障することが必要である。専門の教科の授業を担当し、きめ細やかな指導を可能にする専科教員の配置は有意義である。年度途中で産・育休の代替教員が見付からない深刻な問題を解消するためにも早急に教員の労働条件の改善が必要である。</p> <p>コロナ禍で経済状況が悪化し、子供の貧困率や就学援助率が高い問題もある。給食費や教材費、修学旅行費など学校教育に掛かる保護者負担の軽減、教育の無償化が求められている。</p> <p>学校の設備の面では、校舎やプールの老朽化が深刻である。また、気持ち良く使えない古いトイレが残っている学校があり、トイレの洋式化も求められている。早急に改修を進めるための予算措置が求められる。</p> <p>私たちは、全ての子供の命が大切にされ、安心して学べる教育環境を望む。子供たちに確かな学力を保障し、友達とつながる力を身に着け、自らの進路をしっかりと選択できるようにするために抜本的な教育条件の改善を求める。京都市が国に対してその実現を求めるとともに、京都市独自に予算を確保し、子供たちの教育条件の改善が実施されるよう強く求め、下記のことを願う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 京都市から国に対して、コロナ感染防止を考えて現在の加配施策を後退させることなく、小学校、中学校で1学級当たり、できれば20人学級、多くとも30人学級になるように定数改善を働き掛けること。</li> <li>2 京都市においては、国が決定した35人学級実現の5年計画を待つことなく、現在の少人数施策に加えて35人学級を早期に完了させ、30人学級を目指すこと。同時に、中学校1、2年にも30人学級を実施するための独自計画を策定すること。そして、将来的には小学校、中学校で20人学級を実現すること。</li> <li>3 教育予算を大幅に増やし、教育費の無償化、就学援助制度の充実を行い、保護者負担の軽減、教育条件の改善を行うこと。</li> </ol> <p>なお、本請願について、2,000筆の署名を添える。</p>		
請願者			
紹介議員	とがし 豊, くらた共子, 鈴木とよこ, 河合ようこ		
付託委員会	教育福祉委員会		

